

MOS

Magnetism
of
Sweden

2013



Project Report



日本に根付いて一世紀
ガデリウスが日本初の支店を横浜に
開設したのは、1907年のことでした。

From GADELIUS

ガデリウスの創業者クヌート・ガデリウスが26歳の若さで「クヌート・ガデリウス商会」をスウェーデン・ヨーテボリに設立したのは1890年のこと。それから17年後、クヌートはたったひとりで日本へと渡り、1907年(明治40年) 横浜の地に最初の事務所を構えました。

定期航路も開通しておらず、スウェーデンから日本へは船旅で約8週間もかかってしまう20世紀の初頭。その時、すでにガデリウスはアジアへの進出を果たし、今日のビジネスの基礎を築いていたのです。

当時クヌートは、顧客との信頼関係を何よりも重要と考えて、品質管理や納期にことさら心を砕いていたといいます。

「日本のために、日本人とともに」そんな信念を胸に抱き、日本の近代化を推し進めるような海外の最先端技術や、ユニークで高品質な製品を紹介してきました。

日本と海外のマーケットを結び続けて百余年。クヌート・ガデリウスが築き上げたガデリウススピリットは、今も私たちの心の中に息づいています。

今までの100年も、これからの100年も一。

ガデリウスはこれからも、お客様のニーズを先取りし、時流にあったベストプロダクトをご紹介します。

ガデリウスグループ www.gadelius.com

〒107-8302 東京都港区赤坂5-2-39 円通寺ガデリウスビル

Tel: 03-3224-3411 Fax: 03-3224-3431 Email: information@gadelius.com

東京本社・札幌・名古屋・神戸・福岡・大田事務所・テクニカルセンター





Project Report

8

Nippon Day
&
Nippon Night



10

Sweden Day



24

スウェーデン
の
文化いろいろ



5 About MOS

7 代表挨拶
Message from Minister

26 あるメンバーの
スウェーデン渡航記

28 Exchange Japanにインタビュー

30 Differences and Similarities
Between Swedish and Japanese People

スウェーデン研究

12 雇用・労働政策

14 財政・金融政策

16 移民政策の現実と課題

18 育児政策

20 教育

22 情報技術

AP&T社製 プレスハードニングライン

NEXT STEP



プレスハードニングターンキーライン

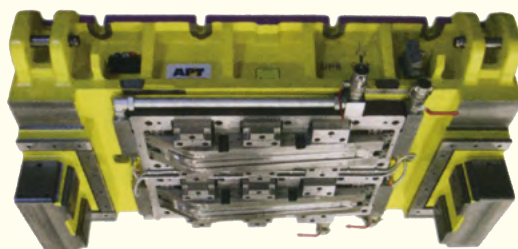
- ・ ブランクディスタッカー
- ・ 加熱炉
- ・ 油圧プレス
- ・ プレスハードニング用金型
- ・ 取入／取出用自動機
- ・ ライン制御装置
- ・ ラインエンジニアリング

上記を含む軽量化・安全性向上のための超高張力鋼板成形用フルターンキーライン

チューブプレスハードニング



2個取プレスハードニング用金型



One Responsible Partner®
AP&T株式会社

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町4丁目43番地セボン関内第二ビル
TEL.045-663-9681 FAX.045-663-9682 URL:<http://www.ap-t-kk.com>
E-mail : apt_supportform@apt-kk.com

AP&T株式会社 主要取扱製品

■ AP&T社製

- 中・大型ハイドロフォーミングプレス
- 熱交換器プレート用一貫ライン
- 温間鍛造・板金成形用プレス

■ Cellimpact社製

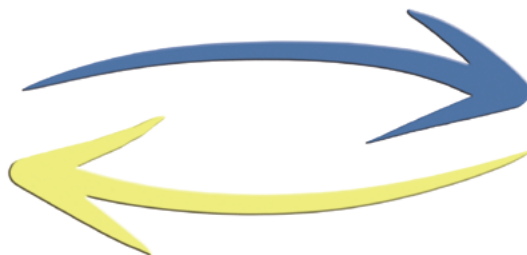
- 高速衝撃成形機（速度10m/秒）

■ AVURE社製

- 熱間・冷間静水圧プレス（HIP, CIP）
- 食品滅菌用高圧プレス
- 航空機・自動車板金部品成形プレス

About MOS

MOS (Magnetism Of Sweden) はスウェーデンに関する活動を主とする一橋大学公認の国際交流団体です。相互ホームステイ、文化・ビジネス紹介イベントを通じたスウェーデンとの国際交流や、スウェーデン研究を行うことで双方の文化理解を深めることを目的としています。



MOS は、スウェーデンのストックホルム商科大と王立工科大をもとに構成された学生団体 Exchange Japanと共に一年完結型のプロジェクトを通して、各代それぞれのカラーを出しながらスウェーデンとの交流を続けてきました。1999 年から活動を開始し今年で 15 周年を迎えます。



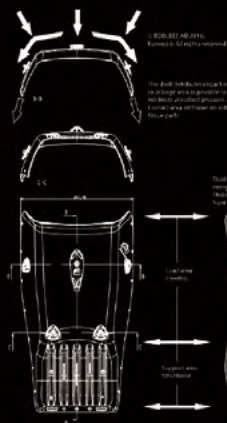


人と荷物の両方を護る、世界で唯一のバッグ

The only bags in the world which protects both people and equipment.

BOB!BEE®

www.boblbee.jp



DESIGNED IN SWEDEN



MEGALOPOLIS AERO

ボブルビー・メガロポリス・エアロ

バックプロテクションのヨーロッパ規格 EN1621-2
最高レベルの LEVEL2 を取得。
平均ピークフォース 5.8kN(ドイツ TÜV でのテスト結果)



PEOPLES DELITE AERO

ボブルビー・ピープルズデライト・エアロ

ヨーロッパのバックプロテクションテストにおいて
メガロポリスを上回る衝撃軽減性能を計測！
平均ピークフォース 2.8kN(ドイツ TÜV でのテスト結果)

※ヨーロッパでは転倒事故などを想定した衝撃エネルギーがどれだけ身体に伝わるかをテストし、身体に伝えにくいプロテクション製品が評価・認定されています。
メガロポリスは EN1621-2 LEVEL2(最高レベル)を取得した世界で唯一のバックパックです。
ドイツ(TÜV)でのテストにおいて平均 5.8kN および 2.8kN という結果は、世界の既存のインターナルバックプロテクタの最高レベルに相当します。

代表挨拶

リーマンショックから始まったユーロ危機、スペインの債務問題、ギリシャ危機、キプロスなど近年の欧州に関してネガティブな状況を感じさせる多種のニュースが日本でも飛び交った 2013 年。実際、今年度の Exchange Japan 2013 の企業渉外も思うようにはいかず、私達を受け入れていた 3 月、またこちらのホームステイの受け入れ直前の 4 月にも、彼らは資金調達に例年よりはるかに多くの時間を割いており、今年度の活動ではユーロ危機を肌で感じるが多かったように思います。

そんな経済状況ではありましたが、MOS 2013 の Sweden Day のコンセプト "Suggestion"、Nippon Day のコンセプト "A Touch of Japan"、そして Exchange Japan の今年度のコンセプトである "Moving Closer" に見られるように、今年度の活動でも物理的に距離の遠い日本とスウェーデンが、ホームステイやイベントを通じて双方の文化に触れ合うことができ、それによって両国の距離を確実に近づけることができたと思っています。

彼らとの交流も 1999 年から始まり、今年度で 15 回目を迎えました。今回の交流で、私達は多様な世界を改めて実感し、多数のムーブメントを起こしてきたスウェーデン文化を肌で感じ取り、日本との一致点と相違点とを理解し、親交を深めることができました。この経験はとても貴重でこれからも彼らとの関係を続けていきたいと強く願っています。現在、MOS2013 は、後代である MOS2014 に引き継ぎを完了しました。再び、新たな素晴らしい関係が築かれていくこととなるでしょう。

この貴重な国際交流を続けていけたのは、スウェーデン大使館をはじめ、協賛して下さった各企業、団体、個人の方々、そして、今までの関係を築いて下さった先代の皆様のお力添えがあつてのことです。心より感謝を申し上げます。

今年度もこの一冊が MOS の活動への理解と、更なる日本国内のスウェーデンへの理解に繋がれば嬉しく思います。

MOS 2013 代表 中田 雄人

Message from Minister

It has already become a tradition for the Swedish Embassy to host the Magnetism of Sweden's (MOS) Sweden Day. This year it was the 15th consecutive successful MOS arrangement at the Embassy by Hitotsubashi University, Stockholm School of Economics and the Royal Institute of Technology. It was a pleasure to participate in the MOS event and see all the active Japanese and Swedish students and academia associates enjoying the day together with the representatives from the business community, who were sponsoring the event and provided information about their companies. The gathering showed that the exchange and cooperation between the Swedish and Japanese MOS students function very well and that the cultural exchange continues to develop with a lot of activities. There are many contemporary issues of interest in Japan and Sweden to discuss and compare, like gender equality, economic progress, climate change, social welfare, sustainable energy, entrepreneurship and innovations. And there are a lot of possibilities to learn from each other. The mutual interest and curiosity in education, research, science and innovations, trade and investments, as well as social and cultural issues seem to drive and inspire the intercultural exchange very well. It is something to continue to build the relations and understanding on for the future to make the Sweden – Japan relations grow even stronger.

在日スウェーデン大使館 公使

Ulf Sörmark 様より



スウェーデンで日本の文化を紹介したいという思いから、本年度も EXJ2013 と共同で Nippon Day を開催しました。今年は昼にストックホルム商科大学で Nippon Day を、夜には王立工科大学において Nippon Night を開催し、総勢 500 人以上もの来場者を迎えたビッグイベントになりました。

今回の Nippon Day 2013 のテーマは “A Touch of Japan ”。日本を、過去、現在、未来の 3 つの切り口から、伝統文化、ポップカルチャー、科学技術など日本の様々な側縁を発信し、実際に触れてもらうことで日、日本を知ってもらう、日本に興味を持ってもらい、来日してもらうきっかけになれば良いなという願いを込めました。

当日は、日本の「過去」、「現在」、「未来」を 3 つの柱をもとに、さまざまな企画を行いました。また、折り紙の達人による折り紙教室や、座禅や相撲の疑似体験ができるブースなどさまざまな企画を行い、MOS と EXJ 双方が協力して実行することで、非常に充実したイベントになりました。

(佐々木 遼)

伝統文化体験

伝統文化を紹介するブースでは、浴衣の試着、日本の様々な祭りの紹介、ヨーヨーすくい体験、ラムネなどの日本の駄菓子や和菓子・日本茶の試飲など、さまざまな企画を行いました。特に、ヨーヨーすくいなどの祭りの体験のブースは非常に好評で、多くの人が楽しそうに体験していました。和菓子の試食、日本茶の試飲についても、日本に来たことのある来場者の方々は懐かしそうにそれを楽しんでいました。もちろん、初めてそれらに挑戦する方もいましたが、多くの方が気に入った様子で口にしていました。書道コーナーでは、実際に筆を持って様々な日本語を書いてもらったり、来場した方々の名前を当て字で MOS のメンバーが書いたりしました。また、浴衣の試着も大変好評で、記念に写真を撮って帰る方も少なくありませんでした。



座禅・相撲

座禅に詳しい MOS メンバーが、来場者の方に座禅を教えながら体験してもらうというブースをつくり、また、相撲を疑似体験できるブースをつくりました。座禅では、独特の座り方に大苦戦しながらも楽しそうに体験していました。相撲ブースでは、相撲を疑似体験ができる服があり、それを着ることで、相撲をしていました。日本に訪れた際には、相撲を見に行きたいと話される方もいました。



プレゼンテーション

今回の Nippon Day では、MOS メンバーの中で 2 人がプレゼンテーションを行いました。そのうちの 1 人はハンガリーからの留学生であったため「日本での留学」について、そしてもう 1 人は「日本のアニメビジネス」について、英語でプレゼンテーションを行いました。2 人のユーモアを交えたプレゼンテーションによって、来場者からは何度も笑い声があがり、日本での留学について、また日本のアニメビジネスについてとても楽しく知ってもらうことができました。

Nippon Day の後日、ストックホルムの街中のカフェで休んでいると、となりに座っていたスウェーデンの学生が Nippon Day でのアニメビジネスのプレゼンの話をしていたという、びっくりするような後日談もありました。



物品展示

日本のポップカルチャーや科学技術などについて紹介するための展示のブースを設けました。ポップカルチャーの紹介としては、展示のほかに、アニメなどのキャラクターのキャラ弁をつくったりして、来場者に楽しんでもらいました。

また、展示の一環として、折り紙の先生にも来ていただき、来場者に折り紙を楽しんでもらうと同時に、折り紙の作品を展示してもらい、多くの視線を集めました。

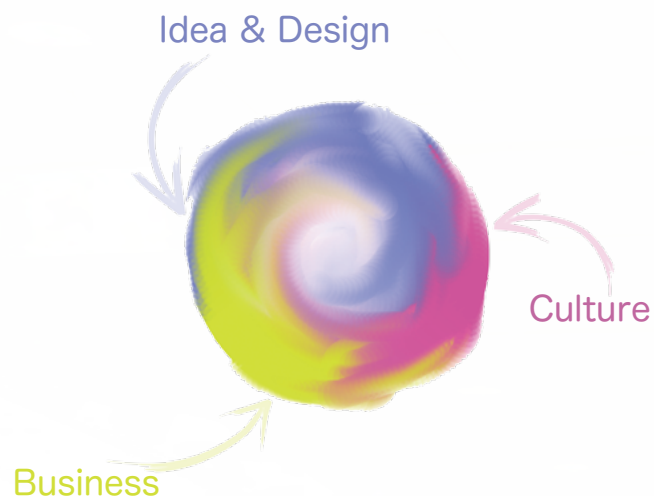


Sweden Day テーマ

"Suggestion"

MOS 2013 は、独自の文化的背景から生まれるスウェーデンのくらしやビジネスのあり方を知ることで、日本での私たちのくらしを良くするヒントを得ることができる信じ、Sweden Day のテーマを "Suggestion" としました。

(山下 卓也)



Booth

企業ブースでは、アノト・マクセル株式会社様のアノト・ペン(デジタルペン)を使った、スウェーデンに関するクイズのブースや、ヘガネスジャパン株式会社様、アトラスコプコ株式会社様の企業紹介ブースを設けました。クイズには、高得点者にブリオジャパン株式会社様のおもちゃが景品としてプレゼントされました。

MOS ブースでは、スウェーデン渡航のライドショーや、ストックホルムの地下鉄アートの展示、スウェーデン最北の街キルナの紹介ブースや、MOS メンバーが手に入れたスウェーデンの雑誌や本の展示を行いました。

EXJ ブースでは、メンバーが当日手作りのチョコボールや、ストックホルムから持ってきたスウェーデンのお菓子を提供しました。



展示した地下鉄アート写真の一枚

Quiz

スウェーデン語で「ありがとう」の意味を表すのは次の内どれでしょうか。

- ① Tack ② Skål ③ Ursäkta



Talk

大使館オーデトリウムでは、スウェーデンに関するプレゼンテーション・トークショーが4つのテーマに分けて行われました。

産業機器の多国籍企業グループであり、世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で発表される「世界で最も持続可能な100社」（Global 100 Most Sustainable corporations in the World）に過去9回中8回選出されていて、2012年には11位にランクインしているアトラスコプコ株式会社様には「**スウェーデンとアトラスコプコ**」というテーマで、

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 博士課程の清水謙様には「**スウェーデン政治外交史について**」というテーマで、MOSの交流先の団体である Exchange Japan メンバーの Charlotte には「**スウェーデンの学校**」について、

『北欧スウェーデンの幸せになるデザイン』『シンプルを楽しむ、北欧の幸せの作り方』著者であり、デザインコンサルタント（swedenstyle 社）の山本由香様には「**スウェーデンの身近なグッドデザイン**」というテーマで、

それぞれプレゼンテーションをしていただき、スウェーデンについて、様々な切り口から紹介しました。



Music

Sweden Day 開催中、イベント会場である大使館には EXJ メンバーの選曲によるスウェーデンの最新の音楽が流れていました。

またイベント終盤では、日本ニッケルハルパ協会様による、擦弦楽器と鍵盤楽器が合わさったような独特の形をしたスウェーデンの伝統楽器、ニッケルハルパの演奏会が催されました。演奏の合間に演奏者の方たちが楽器に興味を持った来場者のもとに寄り、来場者の方もニッケルハルパに触れることができ、楽しんでいただきました。



Food

Sweden Day ではスウェーデン料理のbuffetの提供も行われ、来場者の方にスウェーデンの味も楽しんでいただくことができました。日本テトラパック株式会社様提供のジュースも振る舞われました。また昼過ぎには、スウェーデンの伝統的なお菓子の一種であるセムラがたくさん提供されましたが、人気であっという間になくなってしまいました。またセムラと同時に株式会社信富舎様の提供で北欧紅茶の提供も行われました。



雇用・労働政策

「雇用は守らないが、人は守る」 平等と成長を両立するスウェーデン・モデルの意義



2012年、日本の非正規雇用労働者は初めて2000万人を突破し、労働者全体の38.2%（2007年比2.7%増）と約4割を占めるに至るほどに今日の日本では非正規雇用の拡大が進行している。所得の低い非正規雇用の拡大は正社員との所得格差を進行させ、経済的に不安定な層を多く生み出している。このような日本の労働市場の正規・非正規の二極化について、OECD（経済協力開発機構）は日本に対し是正の勧告を度々おこなっているが、日本の雇用・労働政策の中で、正規雇用と非正規雇用の均衡処遇は未だ実現の目途が立っていない。

このような不安定雇用のもとで経済への閉塞感が強まる日本は、いわば国民の間の「平等」も、また同時に経済の「成長」も見失っている状態といえる。こうした閉塞状況への処方箋として、スウェーデンの雇用・労働政策には学ぶべきものがあるだろう。

ご存知の通りスウェーデンは国民が平等な高福祉・高負担の福祉国家としてのイメージが強い。たしかにスウェーデンではあらゆる分野において「平等」の理念を現実として政策に反映させてきた特筆すべき歴史を持つ。しかし、この国はただ単に平等だけを追求してきたわけではない。890万人という小規模な人口であるがゆえに、国内市場の規模は限定されるため、国際情勢に鋭敏に対応し、海外市場を常に意識して国内産業の国際競争力を維持する成長戦略が何よりも重要とされてきた。つまり「平等」の一方で、それを可能とする

経済的な「成長」への意識が一貫して持たれ続けてきたのである。

しかし、この「平等」と「成長」という二つの理念は互いに相反する性格を持つことも否定できない。この二つの対立を調和する工夫にこそスウェーデン・モデルの意義がある。スウェーデン・モデルは高い生産性と経済効率性の一方で、それと両立が困難とも思える労働者の業種を超えた賃金の平等と完全雇用の実現を目指してきた。このモデルにおける雇用・労働政策は以下の二点に集約される。

1. 連帯賃金政策

連帯賃金政策とは、中小企業も大企業も公務員もその業種や企業の利益に関わらずその垣根を越えた社会的連帯によって、職種（ジョブ）ごとに同一労働同一賃金が決定されるという仕組みである。この連帯は経営者側の経営団体と、ブルーカラー・ホワイトカラー・専門職それぞれの労働者の労働組合の、双方の十分な組織化によってはじめて達成できるものだ。経営者団体と労働組合という二つの頂上団体の一元的な賃金交渉は企業間・業種間の賃金格差を縮小させる。これによって同一労働同一賃金の理念が現実的に実現できる。

2. 積極的労働市場政策

先に見た連帯的賃金政策では、生産性が低く利潤率の低い企業においても、利潤率の高い企業同様の賃金を払わねばならないために、労働コストが経営を圧迫し、場合によっては倒産に至る。その結果、これら生産性の低い企業では失業者

が生まれてしまう。一方で、労使の全国レベルで決まった賃金よりも高い賃金が可能であったような生産性の高い企業においては、その分の余剰を拡大再生産のための投資に回ることができる。ここで、生産性の低い企業で生じた失業者を、生産性の高い企業に吸収されるように積極的に政府が介入すること（政府による積極的な就業斡旋・公的職業訓練）が積極的労働市場政策なのである。こうした労働力の移動斡旋は流動性の高い労働市場だからこそ可能である。積極的労働市場政策により、国内経済の生産性と効率性を上げ、国際競争力を高めて成長を実現できるのだ。

政府の介入というと、ともすれば生産性の低い企業への公共投資による救済をしてしまったり、一方で生産性の高い企業が独自に高い賃上げをしてしまうことで、経済の非効率（成長の阻害）と賃金格差（不平等）を生み出してしまいかねない。

しかし、スウェーデン・モデルのような連帯的賃金政策による一元的な賃金水準の決定と、解雇規制の緩い流動的な労働市場において生産性の高い産業への労働力移動を促す政府の積極的労働市場政策の車の両輪は、労働者間の平等と経済成長を両立することができるのだ。

翻って日本を見てみると、正社員の解雇規制が強いために、流動的な労働市場とは言い難い。しかも生産性の低い企業の正社員を解雇規制によって保護することは非効率的である。他方、男女間の賃金格差や、正社員の手厚い雇用保障の外側におかれた非正規雇用に対しては使い捨て同然であり、仮に同一労働でも正社員と派遣・契約社員など非正規との処遇格差が存在してしまっている。また、政府の介入は生産性を高める方向にではなく、公共事業の名目で生産性の必ずしも高くない業界への救済を行っている。

このような非効率・不平等から、スウェーデン・モデルの効率・平等への転換には、「雇用は守らないが、人は守る」雇用・労働政策への思い切った転換が必要であろう。「雇用は守らないが、人は守る」―これは04～06年にスウェーデンの財務大臣をつとめたヌーデル氏の言葉である。すなわち、生産性の低い企業の「雇用」を固執して守ることはしないが、それによって失業してしまった「人」は政府が就業支援をすることによってきちんと守るということだ。

日本では、最近政府によって「正社員の解雇規制緩和」と「限定正社員（ジョブ型正社員）」の導入が検討されている。

正規雇用の解雇規制緩和と非正規の限定正社員化は同一労働同一賃金の均衡処遇へと向かうと考えられ、方向性としては効率と平等へ一歩前進している。しかし、これだけでは不十分だ。全国レベルの職種横断的な賃金交渉を行える労働組合の組織化と、流動的な労働市場で積極的な就業斡旋を行う政府の政策パッケージもセットで導入される必要がある。スウェーデン・モデルに学んで日本も不平等と非効率から脱却し、平等と効率、平等と経済成長の両立した雇用社会へと転換していくことが待たれる。

（渡辺 泰士）





財政・金融政策

—リスクバンク—

2013 年、アベノミクスと日銀の黒田総裁の異次元金融緩和政策など、日本は今年、非常に金融政策に注目が集まった年となった。この日本で関心が高まった年にスウェーデンの中央銀行である「リスクバンク」の様々な政策にも魅力を感じて欲しい。この国のイノベーティブな金融政策や財政政策は非常に興味深い点が多い。

リスクバンクはマクロ経済の重要性を認識し、「合理性・透明性」を押し出す金融政策を数多く検討、そして実施してきた。

まず、1990 年代に起こった金融危機について述べたい。スウェーデンでも我が国のバブルと同じように、拡張的な金融財政政策の実施の中で、貸出金利の自由化（85 年）などの金融の自由化を推し進めた結果、実質金利がマイナスとなる（注 1）などの影響で余剰資金が資産市場に流れ込み住宅資産などの価格が 10 年で 2 倍以上、株価も 10 倍以上となった。こうしたバブル経済はその後崩壊し、金融危機、通貨危機、経済・財政危機という三重苦に見舞われることとなる。ここでは近年起こったリーマンショックを加えたこれらの危機に対して、また、それ以外にもリスクバンクがどのような革新

的な政策を実行したか少しだがみていく。

危機の際の迅速な不良債権処理

日本ではバブル崩壊後、銀行不良債権処理問題が問題となり、失われた 15 年と呼ばれるほどの事態であったのとは対照的に、スウェーデンでのバブル崩壊後、リスクバンクは迅速な対応で GDP + 値改善までわずか 4 年で回復させて見せた。具体的な手法として銀行の不良債権をバランスシート（BS）から切り離すという手法を採用した。優良債権だけを銀行に残し、不良債権を政府が設置した特別債権回収銀行に売却することで、BS を改善していった。この資金は GDP の 4.3% に相当する莫大且つ大胆な公的資金注入によって実現した。

リーマンショックへの対応

一般的な国の対応としては、証券化商品などの様々な金融商品を購入するなど、マネタリーベースの供給量を増やすという政策が多い。日本銀行もこの政策を行っていたようであるが、その割合はアベノミクス以前では、国債購入額の 20 分の 1 以下の 1~2 兆円でそれほど高くないようだ。これに対して、スウェーデンでは、低質な担保資産を回収していくことを中心に進めていった。具体的には BS を拡大の

ためのリスクバンク決済システム内の担保範囲拡大（低格付けの有価証券、コマーシャルペーパー（CP）など）に拡大した。「良質な担保資産不足」の解消である。

また貸出について、1年など長期資金貸し出しの拡大、スワップ協定の締結とドル建て融資確保。資金調達のための担保不足、ドル資金調達の困難を解決した。

透明性の重視と二つのターゲット政策

リスクバンクは、インフレレポートやファンチャートの導入により、金融政策の透明性を重視してきた。そして、90年代の危機をきっかけにマクロ経済の重要性に着目し、同じく先進的な中央銀行を持つニュージーランドに続き、インフレターゲットを導入することとなる。我が国でも似たような政策を数年前から導入しているが、この国ほど成果が出ているわけではないように感じる。具体的には消費者物価指数CPIの値を $2 \pm 1\%$ の上昇率で推移させるというものである。これにより80年代以降の5~10%のインフレ率を抑え、物価安定を獲得できた。（注2）

物価水準ターゲットについては、物価トレンドの周りで物価水準を安定化させる。長期的な物価水準の不確実性の低下、名目金利が一定の時にインフレ期待の上昇により実質金利が低下する。流動性の罫の状況の打開策となりえる。

これらの先進的な政策を積極的にリスクバンクは取り入れていった。

危機の際の積極的な外資への売却

スウェーデンにおいては、2002年の時点で国内企業と外資企業での雇用数は、ほとんど相違がなくなっており、これらの外資の積極的な利用の流れは、法人税引き下げなどの企業誘致努力、各国のスウェーデン大使館の投資部、日本をはじめとする投資庁の存在により企業誘致や外資企業研究に成功していることが大きい。

これを背景にしたリスクバンク主導での2007年以降の金融危機におけるリストラ問題解決や事業再生の方法も、よく耳にするものとは一味違うようだ。まず思い浮かべるのは、経営危機の企業を国有化することが多いであろう。（日本では日本航空が破綻の際、国有化された。）しかし、スウェーデンでは、雇用の確保のためには外資への売却の重要性を考慮し、リスクバンクは、ボルボ、サーブなど積極的に外資企業へ売却を進めた。これにより、多数の雇用保護が達成された。

実際の政策実行者の話を聞いて

MOS2013は貴重なことに2012年10月欧州日本経済研究所（EJIS）主催のスウェーデン財務大臣アンデーシュ・ボリー氏の基調講演に出席することができた。そこで、リーマンショックへの対応の際話も多数聞くことができた。財政の健全性（注3）、予算決定の方法（注4）など金融危機に対して、国家を挙げて対応できたと自信を持って発言していた。

日本の10分の1以下のGDPである小国であるスウェーデンでのこのようなイノベティブな政策の実行は、非常時による与野党団結、国民への徹底的な説明などに見られる強力な政治リーダーシップ、健全な財政、失業保険、職業支援など強固な社会システムがこの政策を裏で支えている。日本も未来新興国に追いつかれ、このような小国モデルを応用せざるを得ない時が来るかもしれない。実際2050年における米ゴールドマンサックス社のGDP予想では日本は8位に後退すると予想されている。（注5）小国までは行かないものの、その時は、我が国もこの国の政策モデルに少しでも学ぶべき点があるのではないかと考える。

（注1）当時は政府が住宅ローンの利子の半分の税金から控除可能な制度を設けていた。

（注2）他要因の影響も存在する。①IT投資の積極化と競争激化、②賃金交渉へのポジティブインパクト。

（注3）経済協力開発機構（OECD）によって今年の5月29日に発表された、2013年の加盟国の対国内総生産（GDP）比に関する見通しでは2013年スウェーデン1.1%（日本は10.3%）という強固な財政が支えている。

（注4）3か年の歳出を予算提出時に決定する。

（注5）上位10か国は順に、中国、アメリカ、インド、ブラジル、メキシコ、ロシア、インドネシア、日本、イギリス、ドイツ

参考文献

湯元健治・佐藤吉宗「スウェーデン・パラドックス」日本経済新聞出版社、2010、286p..

翁百合 西沢和彦 山田久 湯元健治「北欧モデル 何が政策イノベーションを生み出すのか」日本経済新聞出版社、2012、261p

参考講義

・日本銀行の業務と金融政策 植木修健康 一橋大学出張講義

・EJIS アカデミー 2012年10月15日（月）政策研究大学院大学（GRIPS）

「スウェーデンに学ぶ世界金融危機からの脱却」

基調講演： アンデーシュ・ボリー スウェーデン財務大臣

（中田 雄人）



移民政策の現実と課題

移民の若者たちによる暴動の発生

2013年5月19日、ストックホルム北部のフーズビーで、移民の若者らと警察との衝突が発生した。その後、ストックホルムの周辺各地に飛び火するかたちで移民の若者らによる暴動が相次いだ。暴動の発端は、ストックホルム郊外のヒュースピー地区に住む69歳のポーランド系移民の男性を、彼の自宅で、彼の妻の目前で警察官が射殺したことに関する、移民差別への若者らの疑念とされ、スウェーデンにおける移民政策の問題が表面化された事件であった。福祉国家、多文化主義のスウェーデンにおける移民政策の現状はどのようなものであるか。

スウェーデンにおける移民の動向

スウェーデンで移民が増加しはじめたのは第二次世界大戦中であり、多数の難民が他の北欧諸国やバルト諸国からスウェーデンに来て居住者になった。スウェーデンは1950年代と1960年代に高度経済成長を経験し、多くの新規労働者を必要とした。北欧諸国からの移民者は1969－70年にピークに達し、4万人を超えたが、それは主にフィンランドの高い失業率の結果であった。1967年にスウェーデンは新しい移民規則を導入し、北欧以外の国からの労働移民を制限した。1970年代半ばに北欧以外からの労働者の流入がほぼ終了してからは、北欧以外からの移民者のほとんどが、難民とその家族・親族から構成されるようになった。スウェーデンは、チリ、イラン、イラク、ソマリア、そして旧ユーゴスラビアなど、世界の多くの紛争地域から難民を受け入れてきた。ヨー

ロッパ以外からの移民者の数は、近年急増した。そのうち多いのはアジアとアフリカからの移民である。

*1 現在、スウェーデンの人口の約15%を移民が占めている。

移民政策

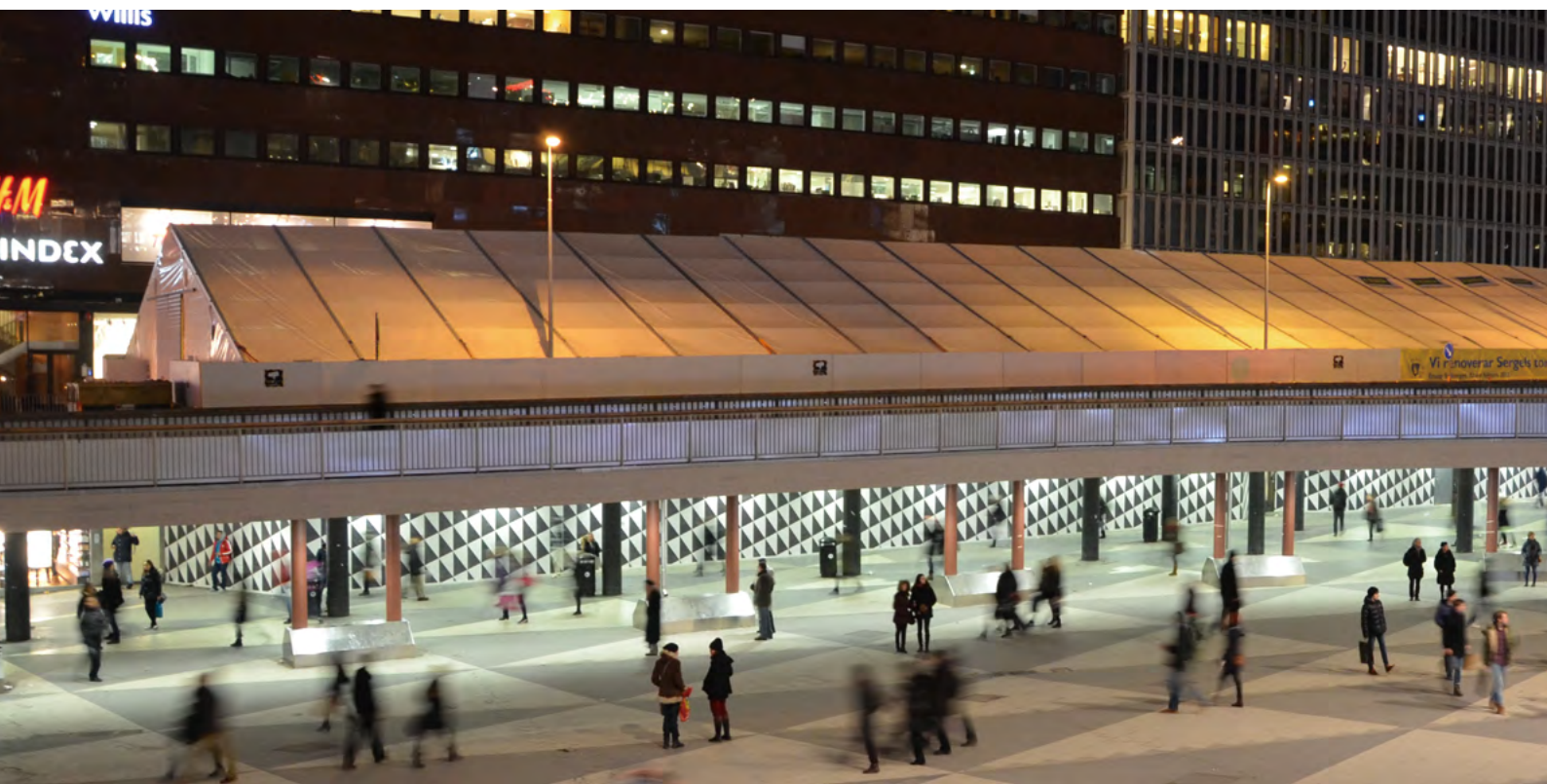
福祉国家として名高いスウェーデンは、移民政策も積極的である。具体的な移民政策を以下にいくつか紹介する。

* 同権政策

スウェーデンに永住権を得た移民は、市民権のあるスウェーデン人とほぼ同じ権利と義務を有する。主な例外は、徴兵の義務がないことと国会議員の選挙権がないことに過ぎず、雇用政策、失業保険、社会保険や児童手当などの支給金、住宅、教育などすべての分野で、スウェーデン人とほぼ同等の権利を有している。また、永住権を持っていなくても、1年以上の滞在を許可するビザを持っていれば、教育ローンの借入れなどを除いては、ほぼ同等の権利を持つ。

* スウェーデン語講座

スウェーデンでは、スウェーデン語教育を重視している。ストックホルムでは、移民が、スウェーデン語の基礎知識とスウェーデン社会についての知識を実につける講座を実施している。勉学を労働、実習、または他のコースを組み合わせることもできる。職業に関心があれば、保育士、商用車またはトラックの運転手などの職業目的のコースもある。政府が移民の支援金など財政面での責任を受け持ち、地方自治体は講座の運営を担っている。



＊反差別政策

スウェーデンの法律は、差別や人種主義を禁止しており、例えば、レストランやホテルで、人種や国籍を理由に、受け入れを拒否することは禁じられている。

＊母国語教育制度

この制度は、子供の両親もしくはいずれかがスウェーデン語以外の言語を母国語とする場合、その子供は親の母国語を学習する権利があるというものである。小中高、いずれの学校においても、生徒から申し出があった際は、母国語講座の開設の努力をしなければならないと言うものである。

現状と課題

移民に寛容で、多くの移民を受け入れ、手厚い移民政策を実施しているスウェーデンだが、問題も生じている。例えば、手厚い政策のために重い税が課せられており、移民は、雇用率、所得が低く、結果としてスウェーデン人が多くの負担を背負う構造になっており、一部では不満の声も上がっている。また、政治参加に関して、議員選挙の投票率は、移民の方が、投票率が低い。教育に関しては、義務教育は日本と同じ9年間であるが、これを終えるまでに移民の生徒は、しばしば学校の知識目標に到達できないでいる。外国生まれの両親の子どもは、少なくとも1人の親がスウェーデン生まれの子どもと比べて高等学校進学資格を得た生徒が少ないなど、差が生じている。また、スウェーデンでは高等学校と大学の教育は、職業により密接に結びついているため、雇用

に関しても、移民とスウェーデン人の間に、所得などの点で、格差が生じているのが現実である。近年の移民者の増加などのため就業の厳しさを増している。また住み分けも進んでいる。ストックホルム都市圏では住み分け指数が増大する傾向があり、移民居住地区では、治安の悪化が問題となっている。＊2冒頭に述べた、移民の若者による暴動が生じたフーズビーも移民が多く居住する地区である。今回の暴動の一因には、不平等に対する移民の若者たちの不満があったかもしれない。

このように、移民に対して積極的な政策が行われているにもかかわらず、移民とスウェーデン人との間に様々な問題が生じている。これは、近年の移民の増大とそれに伴う財政や雇用の悪化が関係しているといえよう。福祉国家、多文化主義のスウェーデンは、今後もその姿勢を簡単に崩すことはないだろう。しかし、高齢社会のスウェーデンにおいて、安定した国家を維持するためには、さらに高度な移民政策を展開していく必要がある。少子高齢社会の進行、移民の受け入れなどの問題に直面している日本は、今後のスウェーデンの移民政策に注目すべきではないだろうか。

(嵩 恵奈)

参考文献

*1 スウェーデンにおける移民政策の現状と課題 / 藤岡純一 / kusw.repo.nii.ac.jp/?action=repository...1 / 2013.8.17 閲覧

*2 多文化社会への模索とその困難点 - スウェーデンの現実に学ぶ - / 児玉克哉 / miuse.mie-u.ac.jp/bitstream/.../1/AN100450900090009.PDF / 2013.8.17 閲覧

*3 焦点：移民大国スウェーデン、暴動で露呈した「寛容政策」のひずみ / REUTERS / jp.reuters.com / 2013.8.17 閲覧



育児政策

先進的な社会保障で知られるスウェーデンは 40 年近くに渡り、男女平等の視点から家庭と仕事の両立が可能な社会経済システムの構築を進めてきた。その中でも、特に充実しているのが、育児休暇制度である。

「両親休業法」に基づき、就労する親には子どもが 1 歳半に達するまで休職する権利と、子どもが 8 歳に達するまで(あるいは小学校 1 年生を終えるまで)、労働時間をフルタイムの 75% まで短縮する権利が保障されている。

育児にともなう休業をめぐる給付制度の多くは、「両親保険制度」に統括されている。その主な財源は、雇用者が負担する社会保障拠出金である。両親保険には、出産予定日の 10 日前から子どもが 8 歳に達するまでに両親で分割取得可能な「育児休業手当」と、子どもの出生後、父親のみを対象とする「父親手当」、12 歳未満の子どもをもつ親を対象とした「一時看護手当」がある。これらの手当は労働時間短縮制度と併用して取得することもできる。

・ 育児休業手当

給付期間は子ども一人につき 480 日で、うち 390 日は所得の 80% を、残り 90 日は日額 180 クローナを保障している。先の 390 日のうち、相手に譲渡できない期間が父母それぞれに 60 日間割り当てられており、父親のみが取得できる 60 日間は「父親の月」と称されている。取得方法には柔軟性があり、出産予定日の 10 日前(母親のみ対象)から出産後子どもが 8 歳に達する迄(両親が対象)、分割取得が可能である。労働時間を短縮して部分取得もでき、4 分の 3 日(所定



労働時間の 25% 勤務)、半日(同 50% 勤務)、4 分の 1 日(同 75% 勤務)、8 分の 1 日(同 8 分の 7 勤務) 分の取得が可能である。

・ 父親手当

子どもの出生後 10 日間、所得の 80% が保障される。両親休業法により、産

前・産後の 7 週間ずつ合計 14 週間は母親のみに休業の権利が与えられているため、子どもの誕生直後に親子全員で過ごすことができるよう父親手当が導入されている。

・ 一時看護手当

12 歳未満の子どもが病気になった際の看護休業に対し、子ども一人につき年間 60 日間(特別な場合は最高 120 日間)、所得の 80% が保障される。1 回の取得期間が 8 日以上の場合のみ医師の診断書が必要となる。子どもの通院の付き添いのための取得も可能で、育児休業手当と同様に分割取得もできる。

・ 妊娠手当

女性のみを対象とする。妊婦にとって危険あるいは不適切とみなされる職務に就いており、職場での配置転換が可能な場合、出産予定日の 60 日前から 11 日前までの休業に対し所得の 8 割を受給する権利が保障されるものである。

他にも…第 1 子出産後 30 カ月以内に第 2 子を出産すると、第 2 子の育児休業中の両親保険額を第 1 子の際と同額分受給できるスピード・プレミアム制度がある。1980 年の導入当初は、第 1 子出産後 2 年以内という期限であったが、1986



年に30カ月へと延長された。第1子の育児休業後、労働時間を短縮して職場復帰する女性が多い。短縮分は無給のため、必然的に所得水準が下がることとなり、その時期の所得が第2子出産の際の両親保険の対象額となれば、2回目の育児休業中の受給額は一層低くなってしまふ。第2子を産むことへの経済的マイナスを補填し、第1子以降の出産行動へのインセンティブを与える制度となっている。

さらに、事業主による両親保険への上乘せ制度がある。育児休業中の所得保障をより充実させるため、両親保険額に上乘せして手当を支給するものである。

MOSでのスウェーデン滞在中、私は2件の家庭でホームステイを経験した。

1件目は、母親が医者で、父親がエンジニア、2件目は、母親が同じく医者で、父親はIBM勤務というエリート一家と過ごす機会に恵まれたのだが、どちらの家庭でも大変印象的

だったのは、家事の分担や、フレキシブルな働き方のおかげで、家庭と仕事が両立出来ているということだった。例えば、1件目の家庭では、母親は毎日朝から出勤するが定時で帰宅しており、2件目の家庭では、父親が毎週金曜日は在宅勤務なので家事をこなしていた。また、印象的だったのは、1件目の母親が「スウェーデンは税金が高いので、夫婦で共働きせざるをえない事情があり、そのために社会のシステムが整備されている。」と言っていたことだ。逆転の発想で、女性が社会進出しやすい環境が整えられているのだと強く感じた。

（佐藤 千紘）





教育

充実した社会制度が整っている国として有名なスウェーデン。中でも教育の分野は日本の制度と大きく異なる。以下では、日本と比較しつつ、スウェーデンの教育政策を紹介する。その後で近年浮上している問題に触れる。

スウェーデンにおける教育政策の特徴は、大きくわけて2つの考え方を基につくられていると考えると分かりやすい。

まず1つ目が「親の経済力が子どもの教育を左右してはならない」という考え方だ。この考え方に基づいて、中学生までの義務教育の期間については学費がかからない。授業料はもちろんのこと、教科書、ノートなどの教材費もすべて無料だ。また、高等教育、大学教育でも原則授業料はかからない。近年は一部、給食費や授業料を負担するところもあるが、依然としてほとんどの学校で授業料の負担は必要ない。また、高校生以上になると国家機関から奨学金を受ける権利が与えられる。教育資金だけでなく、親元から離れて暮らす場合には住居手当も支給される。このようにスウェーデンでは、国が教育費を負担し、家計の経済的負担を軽減させることで、多くの人に教育を受ける機会が与えられるのだ。

一方日本では、教育費を負担する主体が全く逆だ。子どもを大学まで通わせるために、保護者は約1000万円を負担しなければならないと言われるように、家計が教育費を負担する傾向にある。

2つ目が「人間は1歳から生涯にわたって学ぶ」という考え方だ。スウェーデンの教育は、日本でいうような幼稚園や保育園にあたるプレスクールから始まる。7歳になると義務教育として9年間の基礎学校へ通い、その後高校へ進学するのが一般的だ。ここでは少人数制の授業が取られ、日本と比べるとゆったりとした授業が行われる。高校を卒業した後の進路は様々である。就職する者もいれば、大学へ進学する者もいる。もしくはギャップイヤーをとって、1、2年旅にでて自分のしたいことを考える者もいる。そして社会経験を積んだ後で、自分のしたいことを決め大学に進学する人も多い。もちろん高齢になった後で再び大学へ通うということもある。このようにスウェーデンでは一歳から通える教育機関が整っている上で、成人し、ある程度の教育を終えた後にも、自分の意志で教育を受けることのできる環境が整っているのである。

この点についても日本とは対照的だといえよう。日本の場合は高校を卒業後は大学へ進み、就職するというのが一般的な進路で、一度就職した後再び大学で学ぶという人は少ない。スウェーデンでは、一人一人の生き方に合わせて、自由に教育を受ける機会を得ることができるのである。

しかし近年スウェーデンでも社会問題の一つとして、しばしば教育政策の話題が取り上げられる。例えば、移民の子どもたちに対する教育の問題が挙げられる。スウェーデン語の能力の差で、移民の子どもは授業についていけず、他の生徒との間に成績の差が生まれてしまうことがある。スウェーデンでは高校・大学に入る際、基本的に入学試験というものがなく、学校の成績表だけで決まる。そのため成績表につけられる評価は重要なのだ。また、奨学金の返済を怠る人が出てきたことも挙げられる。その背景には、海外へ留学する生徒が増えてきていることがある。彼らの受け取る奨学金の額は、総額 100 万 Kr(日本円で 1400 万程度、2013 年レート)を超えるのだ。これだけの大金を簡単に返せるものは少なく、多くの学生が不安を抱えている。海外へ留学し卒業後、そのまま消息不明になってしまう人もいるようだ。他にも私立学校の増加により教育の質が下がっていることなども問題となっている。

以上スウェーデンの教育政策と抱える問題について述べてきた。スウェーデンの教育政策は、日本も見習うべきところが多い。例えば、日本国内で経済格差が広がっていると言われる中、国が教育費の負担をすることは意味がある。もちろん、スウェーデンと全く同じ政策内容を実施することはでき

ないかもしれないが、国の教育に向ける態度・姿勢を見習うことは可能だろう。

また、日本もスウェーデンと同じように、教育の分野で問題を抱えている。親の経済格差が子どもの学力に影響する傾向にあることや、営利目的に偏りやすい私立学校では教育の質の低下が懸念されている。いずれも簡単に解決できるような問題ではない。だが解決の糸口をつかむために、他国の政策を知り、別の視点から問題を考え直すことは大切だろう。

(楠瀬 朝子)



情報技術

日本ではスウェーデンといえば社会保障が強調されることが多いが、ITに関して先進的な国であることはあまり知られていない。スウェーデン政府はインターネット普及期の1990年代前半からIT委員会を設立し、“一番速く全国民の情報社会を実現する”ことを目標に、IT政策を展開し、法整備を進めてきた。現在、国民が公的部門の情報によりアクセスしやすくするためにITを最大限活用しようとしている点でスウェーデンは世界トップクラスである。また、行政の電子化だけではなく、民間企業がITの分野で強い競争力を持っているのはこのように政府のITに対する準備が早かったことも大きい。

政府のIT活用

スウェーデンの行政は多くが電子化されており、国民の半数以上が電子政府サービスを実際に利用している。この電子政府サービスの肝とも言えるのが“eID(electronic identity)”である。“ID”と聞くと一般的な身分証明証のようなICカードを想像するが、“eID”にはそのようなカードだけでなく、使用者のコンピューターにダウンロードできる“ファイル”として存在するものもある。

確定申告、運転免許書の申請/更新手続き、社会保障機関の児童手当などはこのeIDを用いることで電子化されている。面白いのは、政府だけではなく銀行や通信事業会社もこのeIDの発行体であるということである。つまり、日頃から使い慣れている民間の認証サービスをそのまま電子政府の個人認証として使うことが出来るのだ。他にも、国税庁ではeID以外の個人認証として電話、SMS、PINコードを組み合わせた認証も提供している。

もちろん、民間と連携しているeIDについては、使い勝手の統一感の問題やセキュリティの面の批判も無いわけではない。しかしながら、電子政府サービスの実行への大きな壁の一つとなる個人認証について、柔軟な姿勢で取り組むスウェーデン政府から他国が学べることは大変多いはずだ。

一般市民のIT事情

スウェーデンの最新技術入手可能性(Availability of latest technologies)は世界で1位であり、携帯電話の所有率は100%を超え、携帯電話市場は飽和状態に近い。実際、私達と共に行動していたExchange Japanのメンバーの多くもiPhone5などのような最新の情報機器を所有しており、なかにはスマートフォンをプライベートとその他に分けて2台持つ、いわゆる“2台持ち”のメンバーもいた。

国民全体のインターネット普及率は高く、およそ92%に達している。日本もインターネット普及率はスウェーデンと同様に高いが、日本とスウェーデンの大きな相違点として年齢別インターネット利用率があげられるだろう。日本のインターネット利用率は、若者はほぼ100%、60～64歳は72%、65～69歳は63%と年代別格差が大きいのが特徴である。一方、スウェーデンでは若者はもちろんのことながら高齢者の利用率も高く、55～64歳で91%、65歳以上でも79%がインターネットを利用している。

一方で、インターネットの速度・料金に関しては日本との差は少ない(平均速度はスウェーデンは8.9Mbps、日本は11.7Mbps)。私は今回の渡航中、スウェーデンの大手通信事業会社の一つであるテレノール社の「1ヶ月間データ通信使い放題」のプリペイドSIMカードを339クローナ(およそ5000円)で購入し、手持ちの端末で使用した。3G回線ではあったが、基本的にどこでもYouTubeが見られるぐらいのダウンロード速度はあり、また減速に圏外にはならなかった。特に北極圏のKirunaの、周りに何も無いような場所でさえ繋がったのは驚いた。体感的には日本の通信事業会社よりもカバー率は高い印象であった。

産業・ビジネスとしてのIT

スウェーデンの貿易収支の内、サービス貿易の黒字を支えているのがコンピュータ関連サービスおよびロイヤリティ、ライセンスフィーであり、2012年にはこれらを合わせて1,001億クローナの収入があり、収支は583億クローナを記録している。これはサービス貿易収支全体の約3分の1を占める金額であり、スウェーデンの産業の中でこれらがいかに重要な役割を果たしていることが分かる。また、スウェーデンは高度技術を持つ豊富な労働力を有しており、コンピュータ産業に5万人、IT関連サービス業に16万人、ソフトウェア及びコンピュータ・サービスに9万人が従事しており、サービス輸出にも大きく寄与している。このスウェーデンのIT産業と日本も無関係ではない。このようなスウェーデンのIT産業の発展の基礎を築いたエリクソン社は今日のIT業界においても大きな存在感を持っており、日本でもソフトバンクモバイルとイー・モバイルに地上固定設備を提供したり、ソニーとのワイヤレス分野での協業を行ったりしている(ソニーとの合併会社であったソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズは2012年に合併解消した)。

また、スウェーデンでは近年、若者の起業熱が盛んであり、



スウェーデンで 2010 年に設立された個人会社のうち、およそ 30% は 15 歳から 25 歳の若者によるものであるという調査結果もある。人口 950 万人という、内需が小さい環境もあってか、スウェーデンでの IT の起業は初めからグローバル志向がとても強い。有名な例としては音楽ストリーミング配信サービスの Spotify が挙げられるだろう。Spotify は 2008 年にサービスを開始してから 2013 年までにすでに 30 近くの国・地域で展開し、ユーザー数は 2400 万人を超える（2013 年 7 月現在、日本は未対応）。実際、Exchange Japan のメンバーでも Spotify を使って音楽を聞いているメンバーがおり、少し触らせてもらったがとても便利で洗練されたサービスであるという印象を受けた。事実、Spotify の普及と共にヨーロッパでは海賊版ダウンロードの数が大きく減少したという。海賊版をダウンロードして視聴するインセンティブをも凌駕する利便性というわけである。

今日、日本で「IT ビジネス」という単語からは Google や Apple を生み出したアメリカのシリコンバレーが連想されることが多く、多くの日本企業の視線の多くもシリコンバレーを向いているように思える。しかしながら、電子政府サービス、IT インフラの整備、ビジネス環境に関して言えば上で述べた通りであり、スウェーデンがアメリカに引けをとっているようには全く思えない。

今、いくつかの日本企業は少ないながらもその環境や企

業を狙い、様々な形で関わりを持とうとしている。例えば 2011 年には京セラミタ株式会社（現・京セラドキュメントソリューションズ株式会社）が北欧 4 カ国に持つ各拠点をスウェーデンに統合して事業体制を強化したほか、コニカミノルタ・スウェーデン販売会社が複合機の販売網強化や周辺サービス強化を図り、IT および事務用印刷機器販売、保守サービス、IT コンサルティングを行う企業である KANEO AB を買収した。

日本もようやく官民揃って「グローバル」化に舵を切り始めたが、これが結果となって現れるにはだいぶ時間がかかることだろう。一方で既に完全に「グローバル」化されたスウェーデンの環境や、競争力あるスウェーデンの IT 企業を上手く活用することで、日本企業の強みを活かしたり、弱みを減らしたりすることができるのではないだろうか。スウェーデンと日本のビジネスでの結びつきにはまだまだ大いに可能性が秘められている。

（北島 貴一）

参考文献

ARC 国別情勢研究会 . 『ARC レポート スウェーデン 2013/14 年版』 . ARC 国別情勢研究会 , 2013, 140p.

Åke Grönlund. Electronic identity management in Sweden: governance of a market approach. Identity in the Information Society. 2010, vol.3, p.195-211, doi:10.1007/s12394-010-0043-1. <http://link.springer.com/article/10.1007/s12394-010-0043-1>, (参照 2013-07-22).

Akamai Report: The State of the Internet, 1st quarter, 2013; <http://www.akamai.com/stateoftheinternet/>, (参照 2013-07-22).

総務省 . 『平成 24 年通信利用動向調査』 . 2013, <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>, (参照 2013-07-15).

VISMA: PRESSMEDDELANDE—Hårvård populärast när unga startar eget, 2011; <http://www.mynewsdesk.com/se/pressroom/visma/pressrelease/view/haarvaard-populaerast-naer-unga-startar-eget-586048>, (参照 2013-07-31).

World Economic Forum: The Global Information Technology Report—Growth and Jobs in a Hyperconnected World, 2013; <http://reports.weforum.org/global-information-technology-report-2013/>, (参照 2013-07-31).

スウェーデンの文化いろいろ



食

スウェーデン料理、と言われてピンとくる人はあまり多くないであろう。私たちが毎日日本料理を食べているわけではないように、スウェーデン人はファストフードや、ケバブ、寿司レストランをよく利用するらしい。寿司レストランはストックホルムにかなりの数存在し、なぜか餃子がメニューにあることが大半だった。ただし、外食は高いので、自宅で食事することも多いそうだ。スウェーデン料理では、ミートボールが有名だ。ジャガイモを付け合わせに、ジャムが添えられている。ジャムを付けることに違和感があつたが、食べてみると酸味がマッチしておいしい。

また、にしんなどの魚の酢漬けも定番だ。世界一臭い缶詰シュールストレミングスもスウェーデンのものである。良く売られているのが、キャビア・ペーストと言うチューブに入ったたらこのペーストである。くせのある味で、日本人にとっての納豆のように、スウェーデン人でも好き嫌いが分かれるらしい。スウェーデンは乳製品の大量消費国でもあり、スーパーに行くと乳製品の品数の多さに驚く。ヨーグルト飲料や牛乳には、味や脂肪分などのバラエティ豊かな製品がある。チーズは大きな塊で売られており、チーズスライサーで削って食べる。パンケーキも人気だ。パンケーキと聞くと最近流行りのパンケーキを思い浮かべると思うが、スウェーデンのパンケーキはクレープを少し厚くしたような感じで、ジャムを付けて食べる。おやつには、量り売りのグミ。グミの量り売りはコンビニでスーパーでもどこにでもある。黒いグミには要注意。美味しいというスウェーデン人もいたが、多くの日本人はまずいと感じるだろう。Marabou という会社のチョコレートも人気。チョコレートといえば、チョコレートボールというお菓子もカフェやコンビニで良く売られている。夏至祭ではザリガニを食べる。甘くないシュークリームにアーモンドクリームを入れたような伝統菓子セムラは、イースター 47 日前「セムラの日」に食べるそうだ。

スウェーデン語で乾杯はスコールという。昔は乾杯の時にグラスをぶつけて、自分のカップの中身が相手のカップに入るようにして、毒が入っていないことを確かめたそう。スコールの時には、その場にいる人ひとりひとりと目を合わせる。食事中にグラスを空にせず、中身を少し残しておき、食事後主賓がスピーチを行ったあとに飲む。友人同士のくだけた食事のときには、日本の「いただきます」にあたる言葉がないためか、皆の料理が揃うまで待たず、準備の出来た人から食べ始めることに、些細だが文化の違いを感じた。





人柄

スウェーデン人の性格は、ヨーロッパ人の中でも日本人に近いと言われる。話を聞いてみると、自分の成功は人に聞かれるまで話さないなど、自慢せず謙虚であることが良いとされているようで、日本人と似ていると感じた。職場では地位に関係なくフランクに話すそうなので、その点は日本人とは異なるのかもしれない。

環境対策

スウェーデンのペットボトルや缶には1kr(クローナ：スウェーデンの通貨単位。1クローナ15円程度)などと金額が記されている。これはそのペットボトルや缶をリサイクルすると、返ってくる金額を示したものだ。スーパーにいくと、入口付近にデポジット回収機が設置されている。使用済みの容器を回収機に投入すると、種類と量の分の換金用レシートが発行される。日本でも分別リサイクルは行われているが、リサイクルした人への見返りは特にならない。スウェーデンのように小額でもインセンティブを与えることによって、更にリサイクル率を高めることが可能かもしれない。



また、スウェーデンには“自然享受権”と呼ばれる権利が存在する。スウェーデンでは、自然は国民の共有の財産であるとされている。他人の所有する土地であっても、所有者の迷惑になったり、自然を損なったりしない範囲で、その土地に立ち入ることができ、木の実やキノコや花やベリーの採集や湖や海岸での水泳などが認められる。ユニークな権利であるが、自然に触れる機会を大切にする、そのために皆で自然を保全しようというスウェーデンの人々の思いが感じられる。

環境に関する教育にも力が入れられており、義務教育で環境について学ぶそうだ。

また、環境保護への強い関心の背後には、環境保護産業の技術革新の力を入れることで、その技術を国際市場に売り込み、自国の利益とする狙いもあるようだ。

スウェーデンでは、自然を保全することにより恩恵が受けられるという意識があるために、環境への取り組みが盛んなのかも知れない。

(高崎 杏奈)

FEB. 20



フライト。
スウェーデン到着後、バスに揺られストックホルム中央駅で対面。鉢合わせでした。女性も含めかなり身長が高い。。遅い夕食を食べながら物価の高さに早くも驚く。

FEB. 21



各家庭で最初の朝食を食べる。朝はチーズスライサーに驚いた話で持ち切り。
この日は彼らの案内で、市立図書館、ファッションストリート、旧市街であるガムラスタンへ。北欧ならではの美しい街並みに感動。
夕食時、EXJ が welcome パーティーを開いてくれる。パーティー慣れているのか男性陣も手慣れた手つきで料理を披露。

FEB. 22



スウェーデン最大の IKEA へ。IKEA のカタログは全世界に配られるんだとか。
夜は SSE と KTH での学生パーティーへ。日本にはこの文化はないので彼らには驚かれた。きっと飲酒開始可能年齢が関係しているのだろう。。
この日は学生ナイトライフを満喫。

FEB. 23



スウェーデンの古代の街並みと動物たちを見学できるスカンセンへ。
昼食はスウェーデンではメジャーなミートボールやパンケーキ。
夜は、各家庭で過ごす。お好み焼き、友人とのタコスパーティーなど。

FEB. 24



この日は、彼らが中心地から少し離れたところにコテージを借りてくれた。そこで、季節外れだが、夏のザリガニパーティーをやってくれた。しかし、日曜で酒屋がやっていないのか、EXJ が朝からアルコール調達に困っている。普段

から住んでいるはずなのに。お茶目だ。スウェーデンでは日曜は早く店が開まるそうで、遅くても 18:00 に中心地の店は閉まる。キリスト教の名残で昔日曜はどの店もやっていなかったらしい。ザリガニパーティーは伝統的な歌を歌って強いショットを飲むというのが現地流。苦労するメンバーも。。。いい思い出だ。
日本の飲み会のコールが気に入ったらしく、「飲んで飲んで」と散々言っている。
夜通し話し、飲み、騒ぐメンバーも。この日一気に距離が縮まった。

FEB. 25



ヴァーサ号博物館へ。
その後カフェで休憩。日本で人気の北欧カフェと呼ばれそうなカフェがたくさんある。カフェ文化がこれだけ確立されているとスタバが入り込めないのも納得か。(スタバは空港のみ)
夜は、メンバーのラミ宅で夕食。父親がアラブ人、母親がポーランド人と、移民政策の強さを肌で感じる。

FEB. 26



KTH ツアーへ。教授が案内してくれる。景観にとっても気を使っているよう。様々な世界的ヒット商品がここ KTH で生まれている。(ペースメーカーなど)
夕方、Sake テイスティング。Sake Samurai と呼ばれる連人が日本酒の講義をし、5 種の日本酒を飲み比べる。周りの現地参加者から、おいしいという声を多数聞き、日本人としての誇りを感じる。

FEB. 27



地下鉄アートを回る。通勤時間でもアートの心を忘れないスウェーデン。細かな景観まで気を配っている。
この日の夜は Nippon Day チームの準備を遅くまで手伝う。明日は本番。緊張。

FEB. 28



Nippon Day & Night
成功と呼べるだろう。チームリーダーお疲れ！
(詳細は特集ページへ)

MAR. 1



両親がデザイナーであるアクセル家で餃子パーティー。こんなインターナショナルなシェアハウスがあったら絶対楽しいだろうな。その後、飛行機で北極圏キルナへ。オーロラに期待。なんせ 2013 年はオーロラの当たり年なのだから。

MAR. 2



みんなでコテージへ移動。天気は曇り。-30 度の寒さを初体験。ストックホルムが暖かく感じる。30 分も外にいと、足がかじかんで痛くなってくる。クロスカンントリーをする元気なメンバーも。夜は、スウェーデン人の好きなサウナへ。雪の中を水着で駆け抜けサウナのある小屋までいなくてはならない。過酷。けど楽しい笑。もちろんサウナのお供はお酒。

MAR. 3



前日の天気とは一変して、快晴。重たい防寒着を着用して、準備万全。スノーモービルに乗ってアイスホテル見学へ向かう。部屋の内装は全て氷。部屋ごとに異なるテーマを持っていて、美術館の中を回っているようだった。トナカイの毛皮でできたベットが暖かそう。また、ホテルの中にはバーがあり、それぞれアイスグラスを購入してドリンクを飲む。コテージに戻った後は、犬ぞりに乗った。犬かわいい（笑）夜はみんなで最後のパーティーを楽しんだ。飲んで、踊って、大騒ぎ。そしてついに念願のオーロラを見た！感動！一生忘れることのできない記憶。

MAR. 4



キルナからストックホルムへ戻る日。帰ったら EXJ とは一度お別れだ。少し寂しい。



Exchange Japanにインタビュー

ホームステイを始め、Nippon Day や Sweden Day のイベント運営など、共に活動したスウェーデンの学生団体 "Exchange Japan" (以下 EXJ)。そんな彼らに日本渡航中のことや将来の進路について色々聞いてみました！ 生活習慣からキャリアプランまで様々異なる彼らは一体どのように考えているのでしょうか？

How was Japan?

Charlotte: I truly enjoyed Japan, it was my first visit there but I felt very welcome and you were all so friendly!

Hugo: Japan was amazing!

Cattis: I loved Japan it's a beautiful country with great people and food!

Adrian: Japan was great! It was a trip that will be remembered for the rest of my life. Meeting wonderful people, enjoying Japanese culture and visiting places that only natives could find.



What did you like the most?

Charlotte: It was very different from our culture here in Sweden, what I enjoyed the most was to live with a Japanese family and have dinner with them, because then I got to know what it's like to live in Japan, like a Japanese. I don't think I would have gotten the same experience if I went there as a tourist. It's a once in a lifetime experience!

Hugo: I think I initially enjoyed the crazy parts the most (e.g. Akihabara) but in retrospect it is the late evenings at bars, karaoke and just hanging around and eating well I think I especially appreciated.

Cattis: I found Kyoto the most beautiful with the cherry blossoms!

Adrian: Hmm this is a hard one. I believe Akihabara left the biggest impact on me, since it was sooooo different to anything else I have ever seen. Also, it made me feel like a kid again being able to walk into stores filled with comics, games and all sorts of random cool items!

What was the most surprising for you?

Charlotte: A thing that surprised me was your subway system - it was difficult to know how much money I should charge my card with, it would be easier to have a card that was valid for a whole week or so :)

Hugo: I think what surprised me the most (and what continues to surprise me around the world) is that people don't differ very fundamentally in different parts of the world. Beneath the more superficial differences it felt like Japanese people are eerily close to Swedish - and these cultures are often treated as polar opposites. But yes, Sweden has a long way to go in catching up with the cooking.

Cattis: The most surprising part for me was Akihabara. It's so different from everything back home. I was also surprised that Japan had so many different sides to it.

Adrian: I knew that there were a lot of people living in Tokyo, but well let's say that it is hard to imagine beforehand. The most surprising thing was how well coordinated everything is and how they are good at making a queue (when we went into the skytree tower) and the crossing in Shibuya.



How did you like Japanese food?

Charlotte: I loved Japanese food, I actually bought a lot of wasabi paste and also got some from Chihiro's lovely family - thank you!! To bring with me home, we don't have the same wasabi here. My best memories are from the tea ceremonies with Asako's family and the dinner with Chihiro's family - I loved it and felt so welcome!!! I appreciated it so much and I can't wait to come back!

Hugo: As I mentioned, Sweden still has a lot to do in ways of cooking.

Cattis: The Japanese food I loved are gyoza, sushi and yakiniku!

Adrian: It was varied. I loved some of it while other things were a bit too unusual. Odun, Ramen, regular sushi, sukiyaki and the buffet was really good. However, sashimi was something I was really looking forward to try, but my first attempt was after a night out at a izakaya restaurant, so it was a bit difficult to eat that much raw fish...



What are you going to do after graduating from SSE?

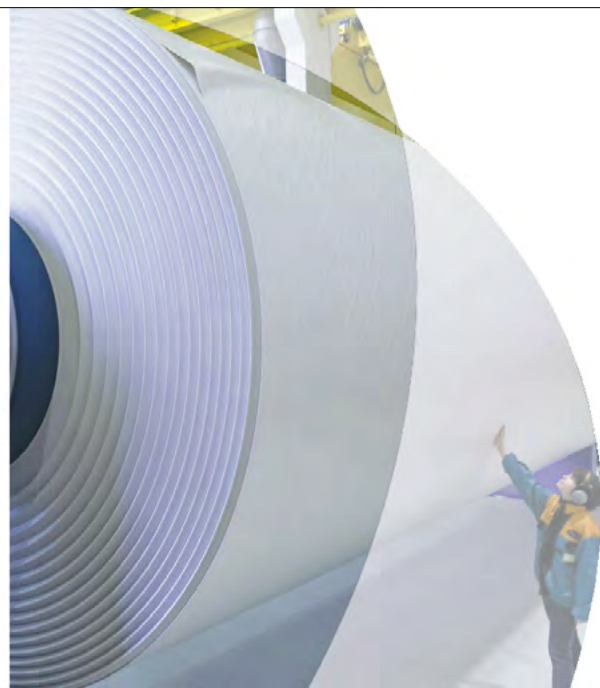
※ SSE = Stockholm School of Economics
(ストックホルム商科大学)

Charlotte: I don't know yet.

Hugo: I don't know what the future holds after SSE to be honest, right now business strategy feels like a tempting path but it changes every other month. May continue working abroad a few times more and I very much hope to be able to visit Tokyo again.

Cattis: After I graduate SSE I will pursue a job as a management consultant :)

Adrian: I will finish my Bachelor's degree next summer, and then I plan to either directly continue with a master or if I manage to get a good internship followed up with a full-time offer, I might start working. My current goal is to work for one of the larger management consulting firms like McKinsey, Bain or BCG!



"You need it, we deliver it."

紙パルプ業界向けのフルスコーププロセス・製品から、工場全体の制御ソリューション、
世界のサービスネットワークによるカスタマーサポートまで、
お客様のあらゆるニーズにお応え致します。

メッツオペーパージャパン株式会社
www.metso.com/jp/pulpandpaper



Differences and Similarities Between Swedish and Japanese People

After spending 1 month in total with the Exchange Japan group, we found many differences and to our surprise – lots of similarities between the members of EXJ and MOS. In contradiction to the “crazy foreigner” stereotype, Swedes are actually very laid-back and calm people. At the beginning they were kind of distant but as we grew to know each other, especially during their visit in Japan, they opened up. EXJ members have worked really hard to make this project happen, but they were always ready for some fun and partying after the hard work. That is another similarity – in both countries after hard work it's time for celebration. Tokyo had a lot of interesting and unusual things to offer for them, for example Harajuku and the cosplayers or Akihabara with the maid cafés.



One significant difference between them and other Swedish university students we've met in Stockholm is their individuality and independence. Most of them have their individual projects besides studying and it is also common to go abroad for years to gain experience before entering university. Thanks to that most of them have an excellent knowledge of English and sometimes at least another European language. I felt the lack of this international experience here in Japan.

In European societies people are expected to be and act mature and serious while in Japan “kawaii” or being cute



is highly valued, therefore purikura or game centers are popular. EXJ members really enjoyed these “crazy” places and of course the all-you-can-drink “nomihoudai” bars. Considering the average amount of alcohol consumed, they wouldn't last long in any European country. :)

Another big difference between these two countries is the public transportation, and the way it's always on time in Japan! I remember them mentioning that life is very convenient here, as the transportation and every field of life is highly organized and most importantly – people are very kind and helpful!

Sweden is a multicultural country, so we encountered no problems while being there and people in general were also helpful with giving directions and so on.

As a conclusion I would say that both nations have a lot in common but there are fields where they could learn from each other. Scandinavian designs are popular in Japan and Japanese sushi is popular in Sweden – even though it's mostly sold by Chinese or Korean shopkeepers. :)

(コワーチ・イーリス)

プロジェクトメンバー



代表	中田 雄人
副代表	嵩 恵奈
Nippon Day リーダー	佐々木 遼
Nippon Day 担当	コワーチ・イーリス 佐藤 千紘
Sweden Day リーダー	山下 卓也
Sweden Day 担当	高崎 杏奈 楠瀬 朝子
渉外	渡辺 泰士
広報	北島 貴一



Project Manager	AXEL LINDBERG
Vice Project Manager	HUGO HEHN
Corporate Relations Manager	ADRIAN BRUN VIKTOR TINGÅKER
Report Book Manager	RENÉE ERICSON
Visual Communications Manager	RAMI AWAD
Student Relations Manager	CAROLINA FAHNEHJELM CATARINA DROTT
Event Manager	CHARLOTTE ISBERG DAVID HORAL



Atlas Copco - Sustainable Productivity -

今回メインスポンサーを務めて下さったアトラスコプコは、140 年前にスウェーデン企業からスタートし、今日では 170 か国以上で事業展開する産業機器の多国籍企業グループです。しかし、「産業機器」と言われても何を行っているのかピンとこない方が多いのでは？そこで、今回は年一回発行の情報誌「Achieve」からアトラスコプコの一面を紹介したいと思います。

アトラスコプコの事業エリアは、コンプレッサ（圧縮機）、産業用ツール、土木鉱山機械、建設機械の 4 つに大別されます。今回はこの内、土木鉱山・建設事業の重機が大きな役割を担うインフラ整備について紹介します。

アトラスコプコは様々な国でインフラ整備の手助けを行っています。情報誌 Achieve によれば、OECD(経済協力開発機構) の推計では、今後数十年間の世界のインフラ需要を満たすには、53 兆米ドルの投資が必要だとされています。日本の GDP(2011) が 5.87 兆ドルなので、約 10 倍の必要があると言えます。

インフラの整備はその国の経済を大きく押し上げる一因となるのは間違いなく、それ自体に雇用創出を期待出来るだけでなく、観光産業、資源や製品の輸送コストを抑え、労働力、製品コストの削減にも大きく期待できます。アトラスコプコは、近年はインドにも力を入れており、世界 2 位の人口の労働力創出に一役買っています。

インフラへの投資はさらなる投資を促進するため、多面的なインパクトをもたらすとインドにあるデリー大学の経済発展学会に所属するブラバカル・サフー准教授は説明します。反対に、インフラが未発達だと、国の競争力が低下することにつながることも言及します。例えば、中国の輸出コストが 1 ドルなのに対し、インドでは同じものを輸出するのに 2 ドルかかります。これは、インドでは道路インフラが十分に整備されていないためだと説明します。

また、アトラスコプコのインフラ整備は、一国だけにとどまりません。世界のインフラといえる物質輸送ルートで、海上での物流に大きく貢献

してきたパナマ運河では水路の幅と深さを拡張する計画が現在進行中で、完成すれば、年間通航許容量が倍増する予定です。このプロジェクトにアトラスコプコの重機などが多く使われています。

興味のある方は日本語版もあるので、「Achieve」を Web で見てみてください。

アトラスコプコグループは世界各国で活躍しています。スウェーデンでは若いうちから国際思考の人が多くいます。スウェーデン人は英語が堪能であることが強みであるため、世界各国からの英語による豊富な情報流入があり、これが今日のスウェーデンの国際競争力の高さの大きな一因となっています。

アトラスコプコ株式会社【Atlas Copco KK】

設立 1979 年 (昭和 54 年) 6 月

Atlas Copco

アトラスコプコは毎年世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で発表される「世界で最も持続可能な 100 社」（Global 100 Most Sustainable Corporations in the World）に過去 9 回中 8 回選出され、2012 年には 11 位にランクインしている。



協賛企業・団体

メインスポンサー

アトラスコプロ株式会社

Atlas Copco

後援



EMBASSY OF SWEDEN

在日本スウェーデン大使館



欧州日本研究所

協賛・協力

Sweden Day へのご協力

欧州日本研究所 (EIJS)
スカンジナビア・ニッポンササカワ財団
日本テトラパック株式会社
パイオガイアジャパン株式会社
スカンジナビア航空
プリオジャパン株式会社
ガデリウス・ホールディングス株式会社
株式会社信富舎
北欧料理 リラ・ダーラナ
アノト・マクセル株式会社
蓼科情報株式会社
エイチエムエス・インダストリアルネットワークス株式会社
メッツォペーパージャパン株式会社
かずさ広告企画株式会社
ポブルビージャパン
AP&T 株式会社
日本ニッケルハルバ協会
株式会社ナレッジクロスファクトリー
HEJSAN
山本由香 (swedenstyle 社)
清水謙 (東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 博士課程)

Nippon Day へのご協力

株式会社川島屋
株式会社 FAKE FOOD JAPAN
株式会社 JR 東日本ウォータービジネス
株式会社コダマ飲料
株式会社サークルランド
ジャニス工業株式会社
TOTO 株式会社
東京ゆかた株式会社
山芳製菓株式会社
株式会社冠城園
株式会社聖護院八ッ橋総本店
さっぽろ雪まつり実行委員会
青森ねぶた祭り実行委員会
京都観光協会
徳島観光協会
沖縄全島エイサーまつり実行委員会



Published in October 2013

Publisher MOS 2013

Editor Kiichi Kitajima

MOS 2013

<http://jfn.josuikai.net/mos2013/>

Copyright © 2013 MOS2013 All Rights Reserved.